

和洋女大文家政 ○田口 秀子
宮川 豊美
川村 一男

最近、冬季に安眠、保温のため、電気毛布を使用することが多くなった。そこで、電気毛布使用就寝時における皮膚温、湿度、および最高血圧を連続的に測定することによって、その使用効果についての吟味を検討した。(血圧については現在吟味中)

被験者は女子学生で、寝室内の条件は、温度 5°C 及び 10°C として、また湿度は $65 \pm 5\%$ として、人工気象室内にて実験を行なった。

寝床条件は、電気毛布と普通毛布、及び洋布団、または和布団を組合せて作った。

皮膚温及び湿度の測定場所は、胸、肩、背、首、手、足の6カ所を選び、血圧は耳朶より最高血圧連続記録計を用いて観察した。

その結果、環境温度の 5°C 、 10°C の場合とも、皮膚温は就床時より漸次上昇を示すが、30分経過後は一定となる。

また、就床前にスイッチを入れて寝床内を保温することについては、30分前、15分前及び就床と同時にスイッチを入れる三者について観察したが、皮膚温上昇の時間は30分で安定することから、就床と同時にスイッチを入れても充分であるものと認めた。また、就床と同時にスイッチを入れてから皮膚温が一定になる30分後にスイッチを切った場合でも、皮膚温に与える影響は認められない。

電気毛布1枚では安眠できないが、普通毛布を重ねることにより解消し、また和布団使用では湿度が若干高くなる傾向があるが、洋布団の併用では、この傾向は認められない。